

**吹田市花とみどりの情報センター指定管理者候補者選定委員会**  
**第三者モニタリング・評価**  
**議事要旨**

**【会議名】**

吹田市花とみどりの情報センター指定管理者候補者選定委員会  
第三者モニタリング・評価

**【開催日時】**

令和元年12月9日（月）10時から12時まで

**【開催場所】**

吹田市千里花とみどりの情報センター 講習室

**【出席委員】** ※順不同、敬称略

上甫木昭春（大阪府立大学名誉教授）

川口将武（大阪産業大学 デザイン工学部建築・環境デザイン学科 講師）

藤本真里（兵庫県立大学自然・環境科学研究所准教授・兵庫県立人と自然の博物館主任研究員）

長村智司（一般社団法人フラワーソサイエティー会長）

高田智子（税理士法人優弘会計事務所代表社員）

**【欠席委員】**

なし

**【公開・非公開の別】**

非公開（吹田市情報公開条例第7条2号に該当するため）

**【傍聴者の数】**

—

**【次第】**

1 開会

（1）挨拶

（2）委員の委嘱

（3）第三者モニタリング・評価の概要、本日のスケジュール

## 2 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選出
- (2) 指定管理者の評価に係る審議
  - ①花とみどりの情報センターの概要  
指定管理者に求めていること、  
吹田市の所管課モニタリング結果
  - ②指定管理者の事業の進捗状況
- (3) 審議の総括・答申
- (4) その他

## 3 閉会

### **【発言の要旨】**

#### 1 開会

- (1) 挨拶
- (2) 委員の委嘱
- (3) 第三者モニタリング・評価の概要、本日のスケジュール

【事務局による説明】

#### 2 議事

- (1) 委員長及び副委員長の選出

委員長： 上甫木委員

副委員長： 藤本委員 に決定。

- (2) 指定管理者の評価に係る審議

- ①花とみどりの情報センターの概要

指定管理者に求めていること、

吹田市の所管課モニタリング結果

【事務局による説明】

- ②指定管理者の事業の進捗状況

【指定管理者による説明】

#### 委員

予算に対して市から求められていることが多いと感じていたが、きちんと人員確保ができて  
いるのか。何人体制なのか。

#### 指定管理者

千里花とみどりの情報センター4人、江坂花とみどりの情報センター4人で運営をしている。最初は手探りであったが、プロジェクトに合わせて適性を見ながら配置し、運営しており、スタッフのスキルも上がってきている。

#### 委員

事業開発的・調整的な仕事として、例えばURの青山台団地のコミュニティ花壇の仕事は、積極的に指導に行かなければならないと思うが、総括センター長が一人で行っているのか。他の事例では有償で、というのはあるが、お金のやり取りはどうなっているのか。お金の問題と、人の配置、専門家を招いているのかを聞きたい。

#### 指定管理者

URに関しては総括センター長が毎回行っており、サポートで専任のスタッフ1名と、講師としてガーデンショップの方をお願いしているので完全に内製化はしていない。講師料を支払っており、それは必要経費としている。

#### 委員

公園つかうプロジェクトで、マルシェなど行うときには、出店したいところがお金を出して、設営や撤収も自己責任で行うのか。公園は無料で貸すのか。

#### 指定管理者

当センターは完全にサポート役であり、当センターがお金を使うことはない。自己責任でやってもらい、収益を上げるような内容であれば、市は都市公園条例に基づく使用料を徴収するので、そのあたりの申請の助言をしている。

#### 委員

東日本や熊本の災害の時に、公園で花苗を配って募金活動をしようとしたら、許認可の手続きに警察協議など非常に時間がかかった。利益を上げるのではないかとチェックが厳しく、そのようなこともあるか。

#### 指定管理者

そういったサポートもできると思う。公園の中だけなので警察協議はしたことはないが、当センター自体が官の施設で信頼があるところとして間に入ることができる。

#### 委員

苗を育てているが、ある程度養成された市民なのか。

#### 指定管理者

市民が江坂のインナーガーデンで行っている。以前から活動している人たちを継続して支援している。施設規模が小さいので、栽培数は少ない。

#### 委員

公園つかうプロジェクトについて、いろいろやりたいことを形にするというのはいいことだが、全部受け入れるのではなく、公の場ではできないことはきちんと伝えたり、助言したりするような、フィルタリングをかけたリ修正をかけることについてはどうしているか。

#### 指定管理者

単に公園にお店が出せる、という発想は違うと思っている。まちのみどりや公園を良くしたいとかコミュニティ形成したいとか、目的意識を持って行うものについて、相談・指導を行うようにしている。

#### 委員

単なる露店の出店を断るときに大事なこととして、吹田市の公園の目標像のようなものがあるのか。例えば代々木公園を中心としたアースデーのようにテーマに同意した人のみで運営されている。それくらい目標設定していいと思う。

あと、シンクタンクにおいては、どのような人材を育てるのかという目標像を持つことが非常に重要である。日常的に市と意見交換をしながら目標像に向かって検討を繰り返してほしい。その結果、もし当初考えていた人材バンクの意義がないと考えれば、やめればいい。それくらいの自由さが必要だ。市と議論して、地域にとって必要な人材を育てることが必要である。みどりのまちづくりというより、みどりからのまちづくりをしていくべき。みどりのまちづくりとなると、せいぜい花壇づくりボランティアの育成くらいしか思われないが、そうではなく、高齢者が多いとか子供たちが利用したいとか、公園や地域ごとの課題を意識して、地域でやりたい人がやるということが大切である。

#### 指定管理者

市で考える人材育成をして、地域にあてこむのは、違うと思っているが、地域が求めている人材が何なのか見極めるのに苦慮している。今は試行的に公園つかうプロジェクトを行いながら、そこを考えている。

#### 委員

役割の変更に伴う苦情やその中にある市民ニーズが把握できるものもあると思うが、その対応はどうしているか。

#### 指定管理者

当初はセンターの2館の役割が変わったことに対する苦情があった。最近は、まちづくりや、公園つかうサポート事業に対しての問合せが多くなってきている。公園を使えるんだという意識が生まれつつあると感じる。

#### 委員

アマチュアナチュラリストを養成することと、地域マネージャーをつくることも両方重要だが、特に後者について、掘り起こしをしっかりとすることが重要である。

#### 委員

地域マネージャーは、なかなか育たないものだが、地域の課題を知ったうえでやりたいことをしたり、この公園をどうするべきかを考える人がいたら、自治会とも話があうと思う。

#### 委員

人材養成を、江坂センターとどう連携させるかは課題。

#### 指定管理者

青山台で行ったコミュニティ花壇の支援は今年度でいったん終了するので、来年度からは、江坂センターのハーブコーナーが人気になっているので、そこで意識を持った方に集まっていたプロジェクトを計画しているところ。そこに来た人たちがうまく育て、地域に戻っていくことをねらいとしたい。

あと、昔から学校にある花壇を、PTA活動として義務的に管理していた人が、なかなか人が集まらないことからセンターに相談に来られたので、現地にてアドバイスをした。その結果、目に見えて花壇がよくなり参加者が増えた事例がある。しかたなくやっている花壇から、やりたいという気持ちが育つと見えたので、今後展開していけばよくなっていく可能性があると感じている。

#### 委員

公園を公園の使用だけでなく、地域の財として、隣接する学校や公民館を利用する人と一体的に活用すると、地域への波及効果が大きい。例えば、学校と隣接した公園では、学校の中ではなく公園をビオトープとして活用することで、学校と地域、子供たちという地域の繋がりが出てくる事例がある。このように色んな施設と隣接する公園では、一体的な活用により、地域のマネージャーにつながるのではないかと。

#### 指定管理者

公民館へ出張講習会では、寄せ植え講座が主になっているが、そのときに公民館さんに提案すれば、公民館の隣にある公園で、なにか地域の方を巻き込んだことができるかもしれない。吹田は公民館が多いので、地域づくりのきっかけになるかもしれない。

#### 委員

まちづくりの支援は、やりたいという声があってから行うのが一番いい。PTAが花壇やりたいという方は相当意識が高い。そのような人を支援し、行政がわざわざアマチュアナチュラリストの枠組みに認定する必要はない。緑をきっかけに人を集めるノウハウを持っている人が、自然にそれぞれの地域にあった人材バンクができるのがよい。

#### 指定管理者

センターから無理して仕掛けても上手くいかない。いかに地域からの声を受け止めるかを考えている。また、そのような人が集まる場づくりも大事かと思っている。

#### 委員

それがいいとなれば、センターの事業としていない人材バンクではなく、市と意見交換し柔軟に判断して見直していけばよいのではないか。

#### 委員

園芸相談だが、毎週2回も行うのは、今後もそれでいいのか疑問に思うことがある。園芸相談自体はいいことだが、実は時間を持て余している人や、誰かと何か話をしたい人への対応が仕事みたいになってしまっている。相談件数が少ないのであれば施設規模的にも週一くらいがよいのではないか。

#### 委員

シンクタンクとしての機能は、とても先進的なことを行っていると思うので、それをもっとアピールすればいいと思うが、市外への発信はどうか。

#### 指定管理者

アピールについては意識して行っている。去年は初めて日本造園学会でパネル展示を行ったり、都市緑化植物園会議でも事例発表を行ったりした。自治体やコンサルからの視察も受け入れた。

#### 委員

緑のプラットフォームになっているような施設の情報が千里センターにあったり、逆に千里センターの情報が例えば咲くやこの花館にあったり、市内外の施設の情報の共有もいいと思う。

委員

吹田市は、センターに係る予算について、どのように考えるか。

事務局

全国的にも2館運営を行っているところは珍しい。役割分担を行っているが、江坂センターは設置目的の意義が薄れてきているように思う。千里センターでは、まさにシンクタンクを進めているので、どう2館を考えていくかだと思ふ。具体的に費用対効果を出すのは難しいが、予算に関しては少ないと感じている。

委員

江坂と千里の人件費について教えてください。

指定管理者

予算について、江坂センターは面積が広いので、維持管理に係る人件費がかかっている。

委員

去年の台風で倒木などの被害があったが、そのような相談や施設管理上の予定外の支出はあったか。

指定管理者

市民からの相談はたくさんあった。倒木した樹木について植樹を行うのでボランティアを活用してはどうかなどの相談もあった。センター内の倒木等は市の方で処理を行ったので、指定管理者としては支出に影響はなかった。

委員

運営体制の項目におけるバックアップ体制とは。

指定管理者

花と緑のフェアでの臨時スタッフや、施設運営状況や予算執行の本部のチェック体制などです。

委員

研究スタッフの拡充や予算の制約など課題があるが、今後シンクタンク機能をどうしていくのか。また、現在連携している関西大学や都市計画学会などの研究成果を情報提供していくこともひとつではないか。

指定管理者

実践型ということで、まずはフィールドでの市民活動をもとに成果を出すことが必要と考えている。ただ正直なところ、調査研究を行うには、現状の予算規模では無理がある。また市民にも関わってもらえるフィールドを作り出すことと考えている。

委員

あとは、樹木調査など市民が集めているデータを展示させてもらうのもいい。

委員

実践型シンクタンクといっても、調査研究スタイルと実践型スタイルのミスマッチの解消は、できないと思う。調査研究の部分と実践の部分の中に、プロジェクトという概念が必要。今動き出しているプロジェクトに対して、実践する者、調査研究する者をつなぐのがいい。指定管理者はみどりのコラボの役割だ。

委員

指定管理者は、調査研究をする必要は全くないと思う。むしろプロジェクト型で、市が政策にプラスになると考えれば、市が受託研究を行い、現場で起こっていることを掘り出し、行政が深く調査するといいい。

(3) 審議の総括・答申

**【指定管理者退席】**

**【事務局による説明】**

委員

財政面ではおおむね安定したしっかりした会社とみられる。

委員

より発展していこうという前提に立てば、プロジェクトや専門職の増強が必要。しっかりした人材が必要。現状でも人件費が安すぎる。

委員

ぜひそれは答申・助言等にいれたい。予算的に増額が必要。

事務局



吹田市は2館あるというのが特徴ではあるが、現在、公園の活用に力を入れているところである。まだまだ未定ではあるが、江坂センターについては、単純な縮小ではない在り方を検討中である。一方、千里センターでのシンクタンクについては力を入れていきたいと考えているところ。

#### 委員

行政が従来みたいに緑化相談を担う時代ではなくなっている。

#### 事務局

緑化相談の機能をホームセンターに譲渡するというマイナスの考え方ではなく、ホームセンターにはできないことをしていきたい。現在、はなみどが行っているような、小学校など地域に入っていかななくてはいけない。そのためには、今までと別の方法も検討することも必要。

#### 委員

民間事業者との連携においては、地域にどう還元されるのか考えていく必要があるので、ぜひ検討をお願いしたい。

### 3 閉会

#### 委員長

では、これで閉会とする。